

2016年12月の金融経済概況のポイント

本日は、毎月の金融経済概況のほか、3か月に1度実施している短観の結果を公表しましたので、あわせて説明したいと思います。

■景気の基調判断

- まず、12月の景気判断ですが、「一部に弱めの動きがみられるものの、基調的には持ち直している」としました。前月までは、「個人消費等の回復に遅れがみられるが、基調的には持ち直している」としていましたので、言い方が少し変わっていますが、全体の景気判断としては、「基調的には持ち直している」ということで、変化はありません。⇒別添1
- 個人消費は、大型店の売上動向には大きな変化はない一方、自動車の売行きはこのところ徐々に回復してきているように窺われます。反面、これまで当地の景気を支えていた観光は、残念ながら頭打ち感が明確になってきました。この間、公共投資は緩やかに増加しており、住宅投資は引き続き緩やかに持ち直しているとみています。雇用は改善傾向が続いています。これらを考え合わせると、道北地域の景気は、内訳には一部変化はあるものの、全体としては、差引して強弱に変化はないものと判断しました。
- 12月短観では、業況判断DIは+14と、前回に比べると3%ポイント下がりましたが、引き続き「良い」と回答する企業が多い状況にあります。2016年度の事業計画では、売上はほぼ横ばいですが、経常利益は大幅増益だった昨年度をさらに約10%上回る見込みとなっています。これらの結果をみても、道北の景気は、決して悪いわけではなく、そこそこしっかり推移していると言ってよいのではと思います。

■個人消費の動向

- 大型店売上高は、9月末に一部の大型店(西武旭川店)が閉店しましたので、10月以降は本年および前年とも同店を除くベースで前年比を算出しています。これで見ると、10月が前年比+0.7%だった後、11月は同▲3.4%と前年実績を下回りました。もっとも、今年の11月は例年になく雪が多かったとか、休日が昨年に比べて1日少ないといった特殊要因もありますので、実勢としては、足許で悪化しているわけではないとみています。
- 11月の新車登録台数は、前年比+12.4%でした。これは最近では結構大きな伸びです(消費税率引上げ前の駆け込みがみられた2014年3月<+15.0%>以来)。これで4か月連続の増加です。「軽自動車を除く車種」と「軽自動車」とに分けてみると、「軽自動車」は前年比▲8.3%と5か月ぶりに前年を下回りましたが、「除く軽自動車」は+25.5%と高い伸びでした。新型車を中心に順調に売れているとのこと。個人消費の中でも、自動車販売は、比較的しっかりした動きになっているとみています。
- 以上からみて、個人消費は、全体としてほぼ横ばい圏内の動きと考えています。

■観光の動向

- 観光は、引続き弱めのデータが目立ちました。
- 11月のホテル・旅館宿泊者数は、前年比▲8.3%と6か月連続で前年割れとなりました。市内ホテルの稼働率は、63.5%と前年水準を若干上回りましたが、室単価を下げて集客しているホテルも多いようです。
- 各地観光は、旭山動物園が前年比▲30.2%と大幅に減少したのをはじめ、軒並み前年割れの実績となりました。
- 観光業者の方に話を伺うと、中国、台湾を中心に外国人観光客の入込みが減少しているとのこと。旭川発着の国際便減便の影響に加え、札幌方面から回ってくる観光客も頭打ちになっているそうです。国内客に関しては、台風の影響もまだ尾を引いているようです。層雲峡地区の宿泊施設で団体旅行

のキャンセルが続いているほか、新規予約も低調のようです。また、例年になく早い降雪の影響もあったとみられます。

■公共投資の動向

- 現時点では新しいデータ（11月分）が得られていません。先月述べたとおり、上川、オホーツク、宗谷の3総合振興局における公共工事請負額の4～10月累計は、前年比+1.1%と前年実績を上回っています。建設業界では、今年度予算の前倒し執行や農業土木を中心とする前年度補正予算分の執行に加え、災害復旧のための緊急工事もあり、人手不足と相まって、各社とも繁忙となっているようです。

■住宅着工

- 10月の新設住宅着工戸数は、前年比+39.0%と大幅に増加しました。住宅着工の統計は振れが大きいので、読み方が難しいのですが、四半期ごとにみると、本年1～3月前年比+20.9%、4～6月同+3.1%、7～9月同+7.1%ときていますので、引続き持ち直し基調にあるとみています。

■雇用動向

- 雇用状況を示す指標は、引続きタイトであることを示しています。10月の有効求人倍率は、旭川が1.01倍、稚内が1.32倍、北見が1.28倍、網走が1.19倍でした。新規求人数は、旭川での減少を主因に全体で前年比▲1.5%と、小幅ではありますが、9か月ぶりに前年を下回りました。これは推測でしかありませんが、西武百貨店の閉店による影響もあるのではないかと考えられます。

■短観調査結果

- 12月短観では、道北地域の企業の業況判断DIは+14でした。前回の9月調査(+17)に比べるとやや低下していますが、引続き「良い」と回答する企業が多い状況にあります。悪化したのは、宿泊・飲食サービス業の中

の一部です。観光関連と思われます。これを除くと、企業の景況感は、3か月前と比べて大きな変化はありませんでした。

- 収益面をみても、道北地域の企業の経常利益は、2015年度実績は前年比+70.2%の大幅増益でしたが、2016年度はさらにそれを+10.6%上回る計画となっています。しかも、前回9月調査では、▲0.4%の計画でしたので、上方修正されています（修正率+10.9%）。ただ、売上は2015年度実績が前年比+1.0%、2016年度が同▲0.6%と小幅減少する計画ですので、「売上が伸びない中での収益好転」という構図に変化はありません。エネルギーコストの低下などの費用面での圧縮が収益向上に貢献しているものと推察されます。
- 2016年度の設備投資計画は、前年比▲17.3%と前回9月調査時点（同▲20.0%）に比べて若干上方修正（+3.4%）されています。しかし、2015年度実績が前年比▲69.0%の大幅減少だったため、非常に低い水準にとどまっています。収益は相応に良好であるにもかかわらず、設備投資がなかなか出てこないという状況が続いています。
- なお、企業の景況感を掴むに当たっては、留意も必要です。道北地域で同様のDIを作成している他機関の調査結果をみると、日銀短観よりも悪い結果が出ているものもあります。サンプル数、カバーしている業種や企業規模などに注意しながら読み解いていく必要があります。⇒別添2

■金融面

- 短観では、企業を取り巻く金融環境について、「借入金利水準判断DI<上昇-低下>」が▲18、「金融機関の貸出態度DI<緩い-厳しい>」が+34、「資金繰り判断DI<楽である-苦しい>」が+15との結果でした。いずれも道北地域の企業からみた金融は大幅に緩和された状態にあることを示しています。⇒別添3
- これに対し、道北地域の金融機関の貸付は、残高の前年比が11月は+1.1%です。これは、全国、全道に比べて低い伸びにとどまっています。金融緩和

が進む中で、道北地域の企業の借入需要が伸びていないことを示しています。

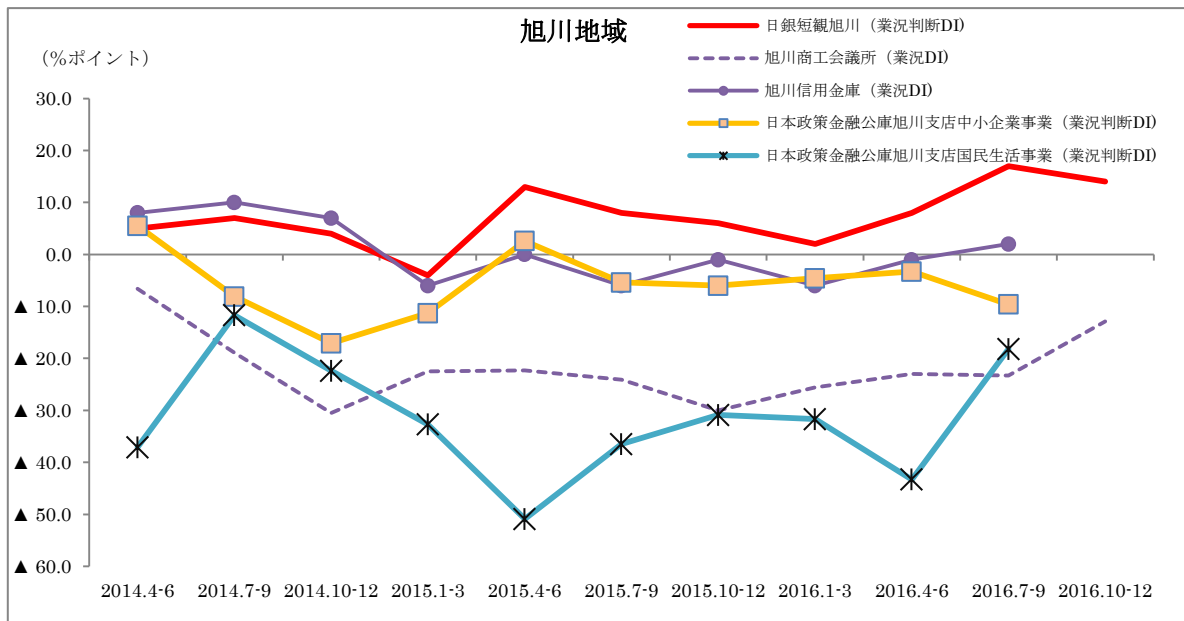
⇒別添 4

以 上

景気判断の推移

公表月	日本銀行旭川事務所		日本銀行札幌支店		(参考)北海道財務局旭川財務事務所	(参考)北海道財務局北見出張所				
	前回比	道北(上川・宗谷・オホーツク総合振興局管内)	前回比	全道	道北(上川・留萌・宗谷総合振興局管内)	オホーツク総合振興局管内				
2014年9月	→	天候要因等による振れを伴いつつ、基調的には着実に持ち直している	→	緩やかに回復している	持ち直している	消費税率引上げに伴う、駆け込み需要の反動が弱まってきており、緩やかに持ち直している				
10月	→	一部に緩慢さを残しつつも、基調的には着実に持ち直している	→	↓	↓	↓				
11月	↓	個人消費等の回復が遅れがみられるが、基調的には持ち直している	→				一部に弱さがみられるものの、持ち直している	一部に弱さが残るものの、緩やかに持ち直している		
12月	→	↓	↓	一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに回復している	↓	↓				
2015年1月	→		→	→						
2月	→		→	→			緩やかな持ち直しの動きに足踏みがみられる			
3月	→		→	→						
4月	→		→	→						
5月	→		→	→			一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる			
6月	→		→	↑			緩やかに回復している	↓		
7月	→		→	→						
8月	公表なし									
9月	→		→	→						
10月	→		→	→						
11月	→		→	→						
12月	→	→	→							
2016年1月	→	→	→			一部に弱さが残るものの、緩やかに持ち直している				
2月	→	→	→			↓				
3月	→	→	→							
4月	→	→	→							
5月	→	→	→							
6月	→	→	→							
7月	→	→	→							
8月	公表なし									
9月	→	→	→							
10月	→	→	→							
11月	→	→	→							
12月	→	一部に弱めの動きもみられるものの、基調的には持ち直している	→							

景況感に関する他機関の調査結果



注) 旭川商工会議所 DI は、四半期最終月の DI。2016.10-12 は、11 月 DI。

【調査対象企業数】

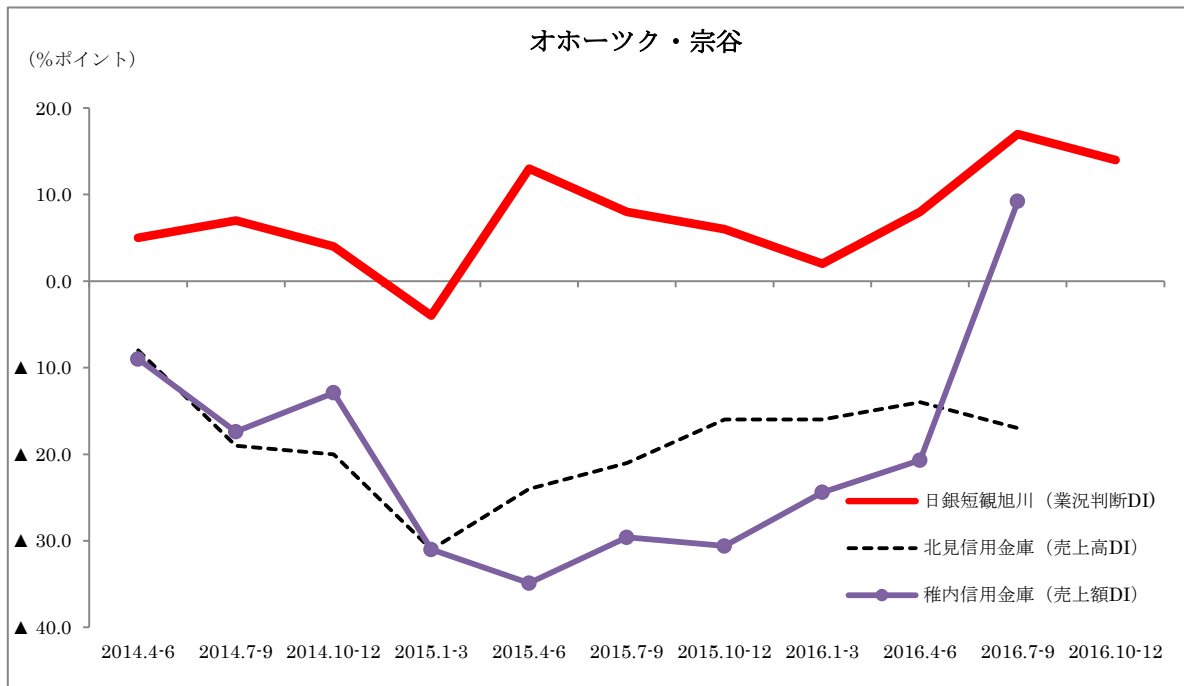
日銀短観旭川：47 社（上川・宗谷・オホーツク総合振興局管内）

旭川商工会議所：200 社（旭川市内）

旭川信用金庫：162 社（近郊を含めた旭川市および富良野市）

日本政策金融公庫旭川支店中小企業事業：86 社（上川・留萌・宗谷・オホーツク総合振興局管内および空知総合振興局管内のうち深川市と雨竜郡）

日本政策金融公庫旭川支店国民生活事業：74 社（上川・宗谷・留萌管内および空知管内のうち北空知地域＜深川市、秩父別町、北竜町、雨竜町、妹背牛町、沼田町＞）



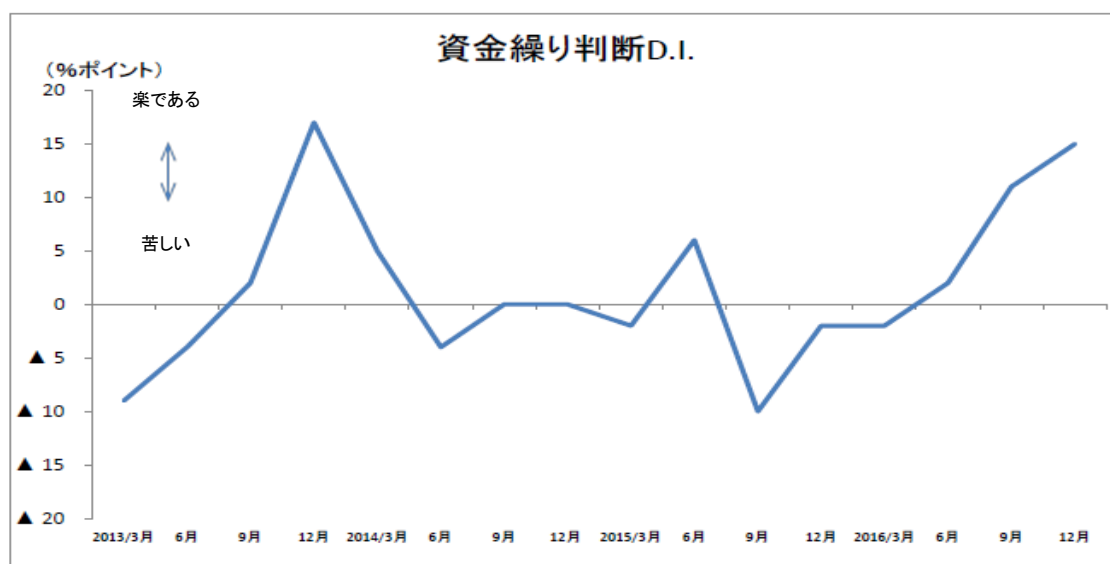
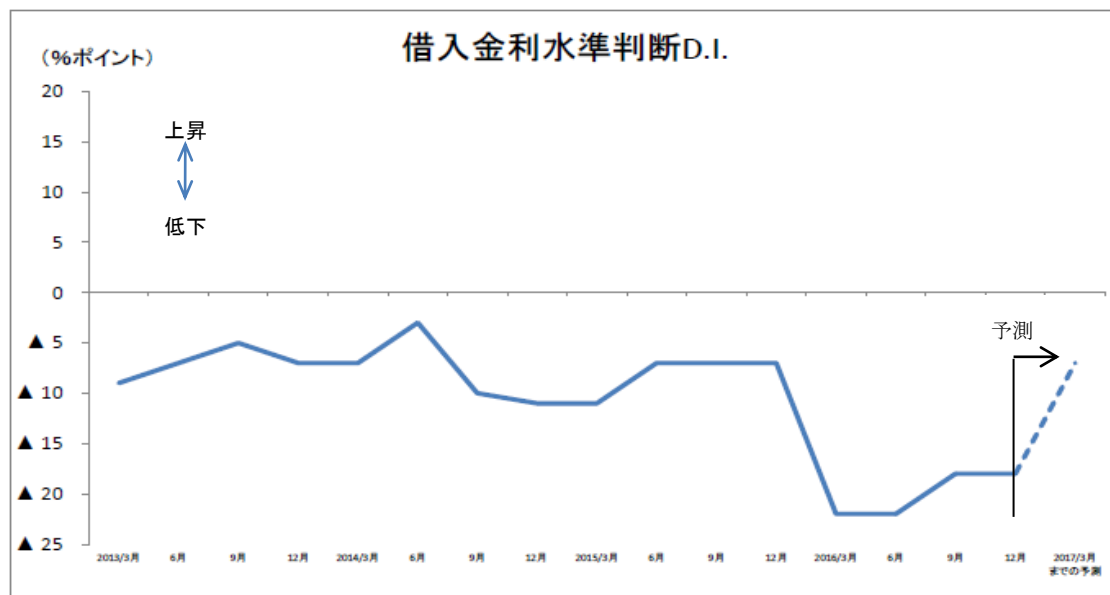
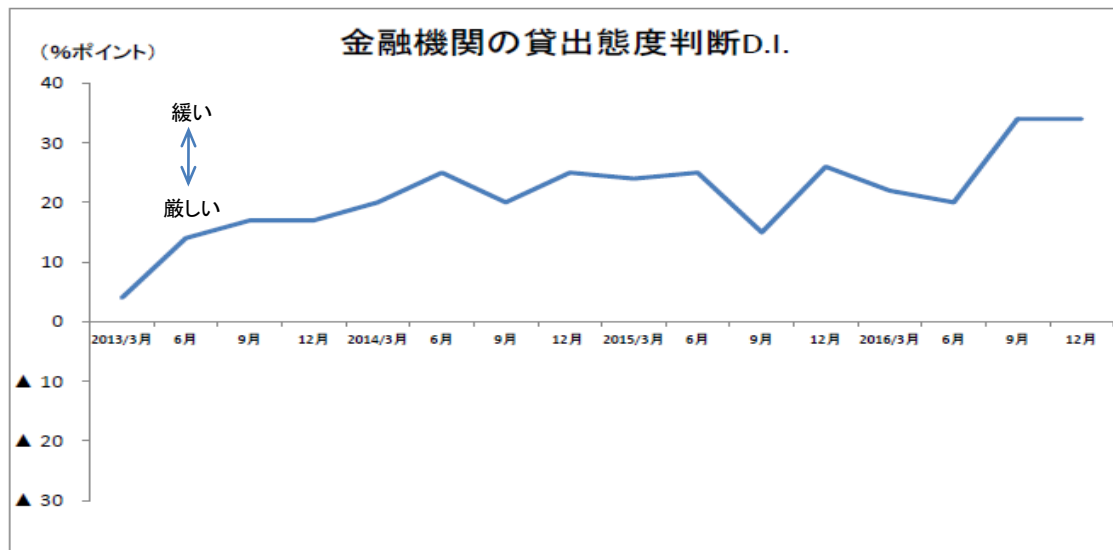
【調査対象企業数】

日銀短観旭川：47 社（上川・宗谷・オホーツク総合振興局管内）

北見信用金庫：181 社（北見地区）

稚内信用金庫：141 社（宗谷総合振興局管内および、天塩町、遠別町、雄武町）

企業からみた金融動向



別添 4

金融機関の貸出（月末残高前年比）

